

◆市川市90年のあゆみ◆

昭和9年11月 市制施行

12月 第1回市議会招集 **1**

10年3月 市役所庁舎完成 **2**

23年12月 消防本部設置、市立保育所開設

24年11月 大柏村を合併し、大柏出張所を開設

25年9月 市立図書館開設

30年3月 行徳町を合併し、行徳支所を開設

31年10月 南行徳町を合併し、南行徳支所を開設

34年6月 市役所庁舎(鉄筋5階)完成

37年11月 アメリカのゲーテナ市と姉妹都市締結

45年12月 市の木に「クロマツ」を指定

47年11月 考古博物館開設

50年7月 市民の花に「バラ」を決定 **3**

52年11月 市民憲章の制定

56年10月 中国の樂山市と友好都市締結

59年11月 核兵器廃絶平和都市宣言を要望する決議を可決

60年8月 第1回市川市民納涼花火大会開催 **4**

11月 文化会館(こなホール)開設 **5**

62年8月 動植物園開園

平成元年11月 インドネシアのメダン市と姉妹都市締結

6年4月 クリーンセンター稼働開始

11月 生涯学習センター(メディアパーク市川)開設 **6**

平成9年9月 市公式Webサイト開設

16年4月 大洲防災公園開設

7月 ドイツのローゼンハイム市とパートナーシティ締結

10月 行徳公会堂(行徳文化ホールI&I)開設 **7**

11月 「健康都市いちかわ」宣言

17年11月 東山魁夷記念館開設

20年12月 市川駅行政サービスセンター開設

21年10月 アイ・リンクタウン展望施設開設 **8**

22年4月 広尾防災公園開設

24年10月 フランスのイッシー・レ・ムリノー市とパートナーシティ締結

26年10月 市川のシンボルマーク決定

29年3月 八幡市民会館(全日警ホール)開設 **9**

4月 仮本庁舎(現第2庁舎)完成

30年4月 道の駅いちかわ開業

令和2年7月 第1庁舎完成 **10**

9月 新議場の利用開始 **11**

10月 行徳野鳥観察舎(あいねすと)開設

5年1月 市立中学校等学校給食費無償化開始

4月 市立小学校等学校給食費無償化開始 **12**

10月 市制施行90周年記念ナンバープレート交付開始 **13**

6年11月 市制施行90周年  
12月 第1回市議会招集から90周年

# 議場コンサート

市議会90周年を記念し、令和6年10月20日に議場コンサートを開催しました。全11団体、250名を超える方が、合唱、器楽アンサンブル、和太鼓演奏、ダンスなど、幅広いジャンルのパフォーマンスを行いました。



八幡小学校 合唱部 (合唱)



大洲中学校 吹奏楽部 (器楽アンサンブル)



三沢モダンバレエ ジャズダンススタジオ (ダンス)



不二女子高等学校 ダンス部・合唱部 (ダンス・合唱)



千葉商科大学チアダンスチーム glitter's (ダンス)



新浜小学校 吹奏楽部 (器楽アンサンブル)



鬼高小学校 管弦楽部 (器楽アンサンブル)



八幡下町ゆうづる太鼓 (和太鼓演奏)



はまかせ合唱団 (合唱)



レンコバンド (バンド演奏)



市川市文化振興財団フレッシュアーティスト  
菊地奏絵さん(フルート演奏)/滝川桃可さん(チェロ演奏)

# 作文コンクール



市議会90周年を記念し、「私たちの思いを、未来へつなごう！」をテーマに作文コンクールを実施しました。市内の小・中学生から173作品の応募をいただき、審査員となった市議会議員による選考の結果、議長賞4作品、副議長賞4作品、審査員賞12作品が選ばれました。

令和6年11月10日の表彰式には、来賓として田中甲市長と勝山浩司教育長をお招きし、表彰状の授与、議長賞受賞者による作文朗読が行われました。受賞者の皆さんは、普段入ることができない議場での表彰式に、初めは緊張した面持ちでしたが、最後は素敵な笑顔を見せてくれました。

## 来賓挨拶(要旨)

### 田中 甲 市長

受賞、誠にありがとうございます。ここにいる皆さんは、市川市に良いまちになってもらいたい、市川市に住み続けたいという純粋な気持ちで作文を書いてくれたと思います。世代を超えて、力を合わせてより良い市川市をつくっていきましょう。

### 勝山 浩司 教育長

受賞、大変おめでとうございます。何もないところから文章を書く作業は大変だったと思います。教育委員会としては、皆さんの学びにつながる活動をこれからも支えていきたいと考えています。

## 議長賞

第三中学校1年	知久 由梨奈	八幡小学校6年	江見 碧
平田小学校5年	立花 美織	南行徳小学校4年	千葉 詩乃

## 副議長賞

妙典中学校1年	石井 楊将	市川小学校6年	高橋 和花
平田小学校5年	川平 和花	富貴島小学校4年	塩谷 咲

## 審査員賞

福栄中学校2年	塚本 圭音	行徳小学校6年	今泉 明憲	福栄小学校5年	豊岡 由良
市川小学校5年	津守 眞里花	市川小学校5年	金定 莉子	南行徳小学校5年	齊藤 菜央
百合台小学校4年	田下 幸一郎	富貴島小学校4年	山田 かなみ	富貴島小学校4年	山本 響暉
富貴島小学校4年	横野 至	富貴島小学校4年	吉村 梨花	南行徳小学校4年	村木 成実

※受賞者の敬称は、省略させていただいております。



## 議長賞受賞作品

原文のまま掲載しておりますが、スペースの都合上、文章の改行は省略しております。作品は、右記2次元コードからもご覧いただけます。

私は二十年后も人々が災害にも負けず、安心して生活できる市川市の未来を想像した。今現在、市川市の人口は約四十九万五千人だ。二十年后日本の人口は減少しているが市川市の人口は変わらないだろう。なぜかという市川市にはたくさんの方々の防災設備を持った公園や子ども園、そして世代を超えてグループホームや地域の方々、そして学生たちが集える公共の場があり、とても生活しやすい環境が整っている。私たちはこれからもこの街に住み続けたいと強く願っている。人々が安心して生活するには、これから来るであろう様々な災害から地域を守る必要がある。市川市には地域の人々と協力して色々な災害に対応できる施設がたくさんある。地域ごとの施設を活用して交流を深め、安心安全な街づくりを私たち若い世代が年長者の方たちの思いを未来へ繋いでいく必要がある。そのためにも地域の人々との日頃からの絆や、チームワークが大切だ。そこで私は今年の四月に中学生になったので、自分に何か出来ることはないかと考えてみた。地域のボランティアに参加したいと思っていたが、人見知りな私には少しハードルが高かった。しかし、今年の夏には自治会で活動している祖母の薦めもあり、地域の盆踊り会のボランティアに初めて参加することができた。通っている中学で地域ボランティアのお誘いの案内もあり、いきなりの友達も誘ってみた。幼い頃から親しんでいたお祭りにボランティアとして参加できる事がとてもうれしく、誇らしく思った。当日、盆踊り会の自販置き場の整備やお祭りの見回り、お菓子配りなどを担当した。その中でお祭りに参加した小さな子どもからお年寄りの方まで、たくさんの方々の笑顔を見ることができてとてもやりがいを感じた。普段お話しすることがない方たちとお話が出来て楽しかった。その話の中で、私の自治会はなんと今年で創立七十周年である事を知った。市川市議会は今年九十周年だ。たくさんの方々の思いが受け継がれ今を創っている。その考えると感慨深いものを感じた。このような地域社会での交流の場を大切に、安心安全な街づくりを目指したい。子どもがいきいきと学び遊び、健やかに育ち社会人になって、お年寄りとなる。それぞれのステージでこの思いを忘れないように、未来へつなごう。この市川市を支えていく存在となるのは、この街に住んでいる自分たちなのだと思える。この機会となった。私はこれからも勇気をだして地域のボランティア活動をしてみたい。

### 市川市の未来へつなぐ地域の絆

第三中学校1年 知久 由梨奈

私の母はいつも言っています。「水と食べ物と電気を大切にしない人は幸せになれない。」と。最近「SDGs」という言葉をよく耳にします。本で調べると、世界は危機的な状態になっていることがわかりました。そこで、せめて市川市だけでも、「エコな街」にしたいと思いました。私が想像するのは、六年後の未来です。皆が水、電気、食物を大切に思い、大切に使える、危機的な状態も少しは救われるのではないのでしょうか。市川市は食品ロスが少ない、市川市は、水と電気のむだ使いが少ない。そういうふうにはめられたら、他の市もおのずと、エコな市になるだろうと動いてくれるのかもしれないと思います。そのためにも、私達にできることは沢山あります。これに挙げられるのは、その例です。例一 毎日エアコンをつけるのではなく、風がある日は、まどを開ければ涼しくですし、保冷剤を当てても涼しくなれます。また、外との気温差も少ないので、外出するものがあまりおっくうになりません。例二 火をつける時間を短くするため、お湯をわかすときはふたをしています。そのほうがより早く、効率よくわかせるからです。例三 食べ物や野菜を捨てずに、野菜も食べられるところまで食べます。人参の皮もむきませんし、野菜のへたも取りません。かぼちゃの種も、みそしるに入れます。「リリリ」していても美味しいです。例四 トイレにはまどがあり、晴れの日は日が差しこむので周りが見えるはんいの明るさでは電気をつけません。例五 お皿を洗うときは、一度水をためて、ため洗いをしています。それに、食が終わってすぐにお皿を水にひたすと、よごれがとれて洗いやすくなるので水をむだ使いをしようというつもりもありません。このように少しの努力で、世界が救われるのなら、私はこれらをいつまでも続けたらいいと思います。そして、その努力を市川市の全員で実行すれば、良い未来に繋がれると感じます。六年後、地球温暖化の心配などしなくても良いようになつてほしいです。そのため、水と食べ物と電気を大切にしない人は幸せになれないの言葉を大切に、少しの努力をつないでいきます。

### エコでつかも明るい未来

八幡小学校6年 江見 碧

伝統工芸で笑顔の花咲く市川市入

平田小学校5年 立花 美織

急いで家に帰り、アルバムで七五三のときの写真を確認した。イチヨウが色づく葛飾八幡宮、むつちりとした頬で恥ずかしそうに笑う三歳の私の頭には、赤色の可愛い「つまみかんざし」が付いていた。千葉県の伝統工芸品、江戸つまみかんざしを知ったのは、「学期の授業」だった。市川市の有名なものを各グループで調べ、発表する授業で、友達のグループが写真付きで「つまみ細工」を発表していて、色とりどりで可愛いなと思った。そしてある日、なんと「広報いなかわ」を眺めていたら、夏休みにつまみ細工体験が開催されていることを知り、参加することにした。当日教えてくれたのは、伝統工芸士である穂積裕子さん。丸くくつらとした「丸つまみ」の花びらを五、六枚を貼り合わせた花を飾ったフォトフレームを作った。ピンセットで一枚一枚花びらに貼って花の形にしていく作業が貼るのが細かく大変だった。でも気づいたら無言で、夢中になっていた。裕子さんの父である穂積美さんは現在八十八歳。一九五一年に集団就職で上京し、親せきの紹介でつまみかんざしの修行を始めた。当時はまだ女性たちが着物を着用している時代だったため、つまみかんざしは日用品として使われていた。裕子さんは、父である美さんの姿を子ども頃から見ていて、はじめは「伝統工芸品やその技術を守っていくなくてはならない」という想いだっただろう。でも今は「七五三や成人式などの晴れの日に、彩りを添えたい」という気持ちで春は大人、夏は子ども向けに体験教室を開催し、多くの人に知ってもらって興味を持ってもらえたらと思う。そしてその横には、体験会に参加している小さな子どもたちの作業を優しく手伝ってくれるお姉さんの姿が。裕子さんの娘のあゆさん。「この子が継いでくれるかわからないですが今はお手伝いだけ、ね」と裕子さん。伝統を守ることは、誰かの笑顔を守ることに繋がっていた。私たちができることは、まずそれを知り、自分で体験したり、自分の言葉で感じたことを伝える、そして使っていくことなのだと思う。十年後、私は二十歳になる。成人式の形は変わっているかもしれない。服装も和装だけでなく、もっと自由に個性的になっていくかもしれないと思う。でも私は着物を着て、つまみかんざしを頭に飾り、きつと七五三のときと変わらぬ笑顔で笑っているだろう。伝統工芸だから守らなければならない、それはもちろん大事だけれど、良いものを当たり前のよう残すことが残っていくことの方が大事だと思う。十年後も古き良きものを身に付け、笑顔がふられる市川市であってほしいと思う。

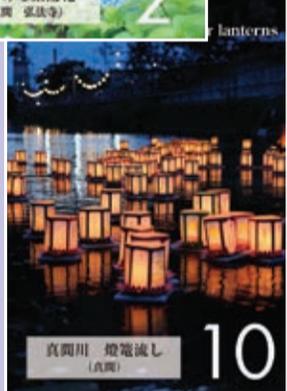
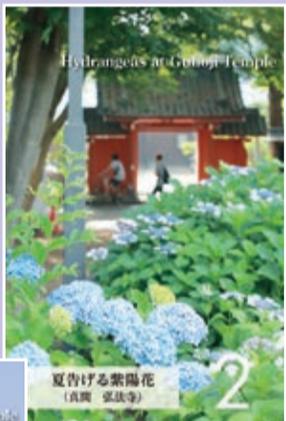
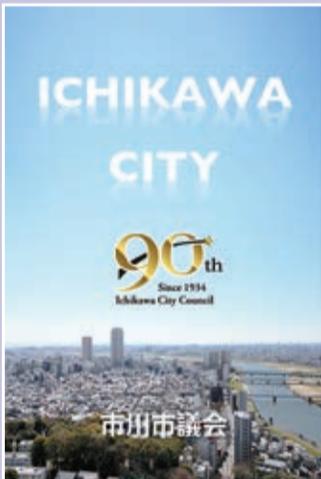
いいことづくしの歴史のまち市川

南行徳小学校4年 千葉 詩乃

私の住んでいる地域は、「みこしのまち行徳」と言われています。私の家の裏の日枝神社にも、おみこしがかざられていて、お祭りの時に大人の人がかかっています。調べてみたら、行徳は江戸時代に「行徳千軒寺百軒」と言われるくらいお寺や神社が多かったために、大工さんなどが集まりおみこし作りが盛んになった事が分かりました。家の近くを歩いてみると、源心寺や善寺があり、行徳古道案内、常夜灯など、歴史的な物も見つけられます。日枝神社は毎朝、おそじをしてくれる人がいるのでいつも整っています。お参りをすると気持ちがいいです。ふだんは静かですが、お正月や七五三の時には人がたくさん来てにぎやかになります。地域の人の大切な場所になっていると感じます。夏休みに、お祭りに行った時には、風陣だいの人達の和だいをみて、感動しました。市川市内には、古くから大切にされてきた伝統や文化が残っています。それが市川市の良さだと思います。百年後にも大切に残されているといいなと考えました。今、私は、地域に残っている古い物をあまりよく知りません。百年後には子どもも大人も、興味をもって実際にやってみたり、伝えたりできる人がたくさんいる町にしたいです。自分の地域に興味をもって知ると市川市が好きになると思うので百年後は、市川市が大好きな人がいふ、みんなが住みたい町にしたいです。そのためにしたいと思うことが、三つあります。一つ目は小学生や中学生が地域のことを知る機会を作ることです。学校に来て神社やおみこしのみ力を伝える活動があるともっと知りたいと思うきっかけになります。もし音楽の時間に風陣だいの和だいの体験があったらとても興味をもつと思います。子ども達に知ってもらうことで未来につなげていきたいと思います。二つ目に町の良さが伝わる食べ物を作りたいです。たとえばおみこしせんべいや常夜灯だんごがあったらいいと思います。おせんべいはおみこしやお寺の絵がかいてあり、おだんごは前が常夜灯の絵で後ろは常夜灯と字で書いてあります。このような食べ物アイデアを市内の人に集めたら楽しいと思います。自分達で作った食べ物があるのもっと町が好きになるし、古い物を大切に作る気持ちも育つと思います。三つ目に市川歴史スタンプラリーを作りたいです。市川市の歴史ある場所に行ったら、キューアールコードなどをよみとってスタンプがおせるようにしたいです。全部まわったらい品がもらえます。まわる場所やけい品のシールやスタンプのデザインもみんなにほしゅうして作りたいです。このように楽しんだり、さんかしたりして伝統や文化を伝える町になってほしいです。

日めくりカレンダーの製作・配布

市議会90周年を記念し、市内各所の風景を収めた日めくりカレンダーを製作しました。市川市を学ぶ機会として活用してもらうため、市内の小中学校、中学校、保育園、幼稚園等へ配布しました。

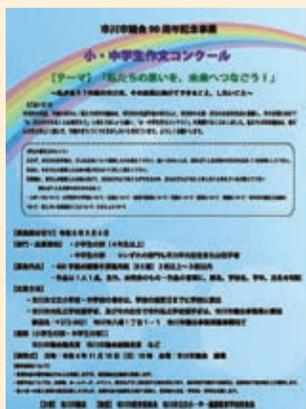
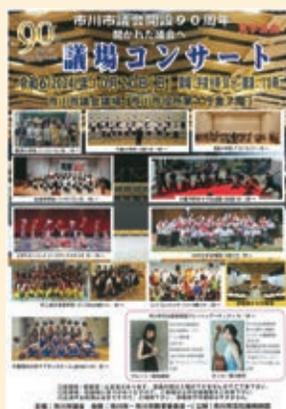


市川市の未来に向けて

市川市では、昭和9年12月に初めての市議会が招集され、令和6年は90周年に当たります。そこで、市議会ではこれを記念し、市の魅力を広く知ってもらうために「日めくりカレンダー」を製作し、市内の小中学校等へ配布しました。また、「開かれた議会」の実現に向け、議場コンサートと作文コンクールを開催し、市民の皆様が気軽に議場に足を運び、議会をより身近に感じられる機会を作りました。

市議会は、未来を担う子どもたちが夢と希望を持てるまちの実現に向け、市民の皆様と手を携え、次の100周年、そしてその先へと歩みを進めてまいります。

各イベントのチラシ



議場コンサート

作文コンクール(左:小学生向け、右:中学生向け)